

3階西病棟この21年を振り返って

3階西病棟看護科長 工藤 仁美

平成21年を振り返ると、毎年のことですが、平均在院日数の短い出入りの激しい、一年であったように思われます。

この1年の間に38床の病棟を、空床利用でおいでになった患者様もあわせて、1638人の方が利用しました。

産科の動きとしては、12週以降の死産・早産・帝王切開分娩を含めて月平均約40件 1年をとおして477件の分娩がありました。

手術の件数は、帝王切開を含み日帰りの子宮内容清掃術から、件数は少ないのですが、婦人科の子宮・卵巣の摘出手術のための入院もありました。

その他では産婦人科の入院の目的の多くは、悪阻・切迫流産治療です。総数で653人の方が入院されています。

他方小児科の入院数は、一般病床では月平均約64人 1年を通して770人の病児が、未熟児を含め生後間もない新生児期病児の入院は217人の総数987人でした。

小児科入院は呼吸器系の疾患が多く、炎症性疾患である肺炎263人、気管支炎・上気道炎等で72人、その他喘息・クループ症候群がおり、ついで多いのは消化器系疾患の胃腸炎で一般病床入院の半数を占めていました。その他では熱性ケイレン48人も多いなど、感染症による入院が多いため他患への感染を防ぐため、病室操作に追われることも少なくありませんでした。

新生児・未熟児室では、その入院数は217人で内訳は、HFD児・SFD児を中心として、高ビリルビン血症での光線療法目的入院、低出生体重児・早産児ほか、出生時の一過性の呼吸不全による入院で保育器収容も少なくありませんでした。

平成21年は、3階西病棟の活動の基本である“母と子の病棟として、共同して安心・安全・確実・満足を提供すること。”を目的として活動してきました。そして、患者さんにも満足していただき、自分も満足する事に目標を置きました。具体的行動として、

- 1 ケアの連携・継続を図る。
 - ・医師・事務・他のコメディカルと共同する。
 - ・地域の看護サービス機関との連携を図る。
- 2 環境・システムを改善・整備する。
 - ・記録物の改善を行う。
 - ・入院環境（ハード・ソフト両面）の点検・整備を行う。
 - ・連絡・報告・相談そして情報を共有し記録に残す。

- 3 各チームの特性・活動を病棟全体が十分理解し、各々が活動を活性化して3階西病棟の看護を実践する。

*コミュニケーション能力をつける。

*自己研鑽をする。（研修に投資しよう。）

*5つのSを事故防止のスローガン

整理・整頓・清潔・清掃・スマート（躰）としましたが、十分とはいえず病院機能評価のV6を受審する際には大掃除・文書整理に追われました。しかし、審査委員方の病棟訪問が無くスタッフたちは、がっかりしていました。

看護ケアにあたるスタッフも退職・新採用・院内異動と出入りの多い年でしたが、新婚のスタッフ・婚約したスタッフ・妊娠などなど概しておめでたいことの多い一年でしたが、病気・手術・流産など不幸なことも少なくなく、いろいろな課題を抱えながらも日々の業務に邁進したスタッフに感謝して心からありがとうを言いたい気持ちでいっぱいです。

家庭を持ち子育て真最中のスタッフたちも多く居りますが、その苦労や経験は“母と子のための私たちの病棟”では大変貴重なものであり、看護ケアにプラスとなり生かされると考えています。

病棟は周産期チーム・小児科チームの2チームで業務を行っていますが、それぞれ伊東助産師・菊地看護師と若いチームリーダーがチームを牽引し、いろいろな成果を上げてきました。私の念願であった産科外来へ助産師が半日だけですが下りるようになり、指導の充実・外来から入院への連携の強化が図られ、母親学級も月2回の実施で、

より内容充実につながりました。小児科は細かい指示などでトラブルが多い中、事故防止に向け毎月検討を深め大きな事故なくケアを提供することができました。

平成21年も産科・小児科の先生方に協力いただきながら、信岡係長・石垣係長そして各チームリーダー・スタッフとともに頑張ってきました。感謝の気持ちとともに、平成22年もみんなで支えあいながら良いケアの提供できる病棟でいられるよう努力していきたいと思えます。